多摩美術大学 **校友会 会報［アルティ］**

alT

No.
26
2020

多摩美術大学校友会

出前アート大学：第 55 回「見て発見！！ 感じて発言！！ エターナル・アフリカ」にて

学生支援

多摩美術大学校友会は、熱意溢れる会員の皆さんに支えられ、多くの同窓生や在学生の皆さんとの出会いによって日々活動しています。誕生から四半世紀が経ち、新たな企画にも色々と取り組んでいる矢先、今年は突如私たちを襲った新型コロナウイルスの感染拡大により、すべての活動を見直さなければならない事態になってしまいました。

総会や理事会のリモート化。「ガーデン同窓会」をはじめ、「出前アート大学」や「チャリティ展」、「四美大アラムナイ」など、多くの恒例事業は見合わせることとなりました。各支部で活動されている皆さんにとっても、これまで続けてこられた発表の場を縮小したり、休止したり、遠方から参集する機会を失ったりしたのではないでしょうか。

休業や閉店などが続く社会の流れは危機的で、そんな中、一番困窮していたのは現役の学生たちです。創作資金はもとより、生活そのものを脅かす状況に、今校友会が持てる力を注ぐべきことは何か前例のない決断が必要でした。その結果、理事会での協議、総会での審議を経て、これまでに蓄積してきた校友会の準備金の一部を拠出し、本学に寄付いたしました。多摩美術大学では、かなりの予算を拠出してコロナ禍における学生支援に取り組んでいるとの情報を得ていましたので、それと合わせて学生支援に当ててもらう事になりました。今回の総会はリモートによる議決だったため、ここで初めてお聞きになる会員もいらっしゃるかもしれませんが、未来の校友会会員である後輩たちへの支援ができた事は素晴らしい決断でしたし、皆さんにご理解いただけるものと思っております。

事業内容

校友会の事業は大きく分けて3つ。「卒業生、在学生への情報提供や支援」「会員相互の親睦」に関する事業。これは、会員のデータベースやホームページの管理、奨学金やグループ助成、ホームカミングデーや支部活動などが該当します。

次に、奨学金の資金を援助するチャリティ展などの事業。

そして、「大学との連携、芸術文化の興隆に資する活動」としての渉外的事業。これは、出前アート大学、四美大アラムナイなどです。

今年はたくさんの事業が中止や延期になってしまいましたが、来年は新たな気持ちで再スタートが切れるものと信じております。

まだまだ、コロナ禍の終息には道遠く、厳しい局面は続くと思いますが、美術やデザイン、創造の火が途切れることなく燃え続けるよう、常に風を送りながら応援していける校友会でありたいと思っております。引き続き会員の皆さんのご協力をお願いいたします。

今回の「aIT」は、そうしたコロナ禍になる前の活動も紹介されています。小学生とともに美術を語る学生たちの笑顔、会員同士の和やかな語らい。そこに懐かしさすら感じますが、1年前まで日常であった「普通の毎日」が1日も早く、また味わえることを願いたいと思います。

校友会会長　中村 一哉（'77 油画）

創造の火は途切れることなく燃え続く

制作・研究に熱心な学生を支援します

校友会奨学金

多摩美術大学に在籍し、制作・研究活動に熱心な学生を対象に、毎年奨学金を授与しています。

アート部門・デザイン部門に分けて募集し、選ばれた総勢15名に奨学金20万円を授与します。返還義務のない奨学金制度です。

今年は2020年3月に八王子キャンパス内において2019年度の「成果報告展」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため開催が中止となりました。そこで、2019年度の奨学生たちの研究成果を誌面にて紹介いたします。詳しくお知りになりたい方は、校友会ホームページをご覧ください。

許 寧（大学院油画2年）

Kyo Nei

物質と精神が両立の絵画へ ― 至誠の絵画

大学の教育理念である「自由」と「意力」からインスピレーションを受け、今まで描いたことのないF500号2枚を描きました。「自由」がテーマの作品は、学部の時から研究していたネーデルランド絵画やルネサンス絵画への理解を背景に制作。「意力」を表現した一枚は、筆で描くことを避け、色んな道具で制作することを心がけました。私にとって自由も意力も決して頭の中にのみ存在するものではなく、人間の細やかな行動の中に具体化されるものと考えています。

國持 友里（版画4年）

Kunimochi Yuri

実体を持たない造形について

有形無形の形が様々なメディアへ変換・再構成されていくことで、どのように「形」が変化を遂げていくのかという関心に基づき研究を行いました。

どのように素材を構成すれば意味を持たないパーツがモチーフとして機能するかを検証するため、素材に記号性を付与する過程を段階的に分けて作品を制作し、鑑賞者の反応を観察しました。

提示方法に関しては、今年1月に開催された有志展のキュレーションを担当した事が、効果的な見せ方を選択できる経験になりました。

小柳 春乃（大学院彫刻1年）

Koyanagi Haruno

作品の在り方と見られ方

「作品」というものの在り方や、作品と鑑賞者との距離感から、自分の作品の見られ方に違和感を感じ、作品と共存することを目的に制作をしました。

鑑賞目的ではなく、おもちゃやペットのような感覚で、人と共存するために作ったものは「作品」と呼べるのでしょうか。今回の制作は、曖昧な存在を作ることで作品の在り方の再考を促し、人と「作品」の距離感を縮める試みでもあります。

小林 明日香（大学院日本画2年）

Kobayashi Asuka

日常生活に見るゆらぎについて

水や光の反射や動きをモチーフとして制作しています。学部から大学院へと制作を続けていくうちに少しずつ表現が変化して、技法以外の表現にも興味を持つようになりました。支持体であるパネルや展示空間を利用して、モチーフを見た瞬間の感動や空気感を含めて伝えたいと考えています。

森田 舞（大学院日本画2年）

Morita Mai

″発見的共感とは何か″ 「ART POINT Selection Ⅰ」展へ向けて

総体と個体は本質を共有し、私たちが人類としての共通の事実を無意識下に内包するとした上で、総体から抽出した要素を提示し、事実への自覚を促すことで存在の再肯定という救済へ繋いでいます。制作では″総と個の間を移ろう実体″の″発見的共感″を課題に、個としての意識の境界と輪郭をテーマとし、流動的な線上で起こっていることを描くことで何ものかの輪郭が現れると考えています。

宮林 妃奈子（油画3年）

Miyabayashi Hinako

複眼的な視点により 風景になりきれない風景を描く

ドローイングを通して、「複眼的視点」によって世界をみることで生まれる「層」について、さまざまな角度から捉えることに挑んでいます。

言葉になりきれないハッとした瞬間を絵画に昇華させることを大事にしています。カンヴァスではない支持体を用いて「表裏」の関係を追い、素材と断片にならないための空間づくりを平面絵画のなかで模索し、世界で起きている時間の重なりをレイヤーとしてひとつの画面に起こしています。

下 虎之介（工芸4年）

Shimo Toranosuke

金属における鏡面の表現と その結果報告展示

鏡面、また鏡自体について調査し、多くの文化圏で宗教的な意味合いを持つことなどを確認しました。

制作面ではテストピースを用いて加工面の表情を研究し、番手の低い順から徐々に上げていく基本的な研磨のスタイルで作品を制作し、卒業制作展示で発表しました。

佐々木 優（大学院彫刻2年）

Sasaki Yu

自作に見る家庭環境

父親に似せた男性をレンタルし、実の親子という設定で数年ぶりに再会しました。互いの家族の記憶を手繰り寄せる一方で、主導権は私から父親代行の男性に移り、私は2つの家庭と2人の父親の間で、異性親子の関係や家長の定義について揺れ惑います。

幼少期の記憶を通して、日本にみる緩やかに続く家父長制、家庭という集団との距離の測り方や親子の関係性など、家庭環境の様々な要素を織り重ねたシリーズ作品です。

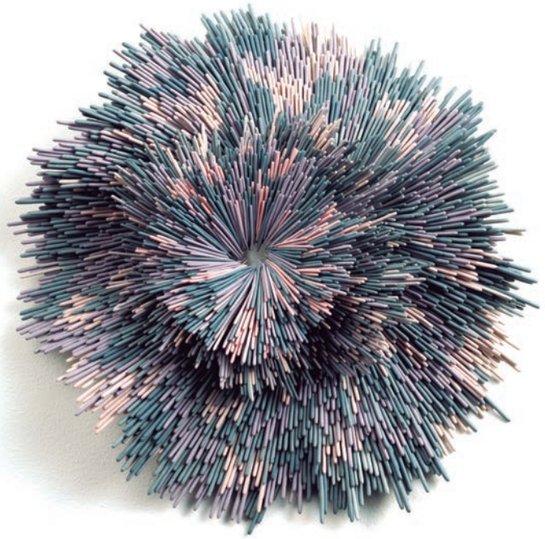
山﨑 真梨恵（大学院工芸2年）

Yamazaki Marie

成り立ちのルール
陶のユニットによる制作

私は道端の植物や、編み物の糸の一本一本、東京の高いところから眺める街などに目を奪われてしまいます。これらに共通することは「一見同じようで少しずつ違う一つ一つの単位が、あるルールに則って集合している様子」であり、そこに魅力を感じているからだと考えました。

その魅力を明らかにするため、陶のパーツで様々な条件を試すことで生まれるかたちを求めて制作しました。



撮影者：岡本風愉

大村 晋二郎（大学院 TD2年）

Omura Shinjiro

防御と解放
ーニットテキスタイルによる衣服造形ー

人には衣服という、他の生き物にはない第二の皮膚が存在します。他者からの視線によって自身の心に生じる防御と解放心を、テキスタイルと衣服で表現できないかと考えました。

様々な素材と技術の組み合わせを実験し、直感的な造形が可能なニットテキスタイルの多様性を探求すると共に、「防御と解放」というテーマに取り組みました。

王 玉（大学院 PD 2年）

Wang Yu

親子の“愛情”と“愛着”のデザイン研究

親と子の関係を見つめ、家族、地域、社会、自然を含む全ての環境に敬意を払い、平和を願うという理念のもと、CMF や IoT を通して子どもの不安やさみしさ、親の愛情や温かさを感じさせられる、“心に染みるプロダクトデザイン”を研究しました。

愛情を記録するアプリや愛着を伝えるサービスシステムなど、子どもの発達段階に基づいた親子向けのデザイン提案を行い、実際に3つの家庭で検証を行いました。

松井 日向子（PD4年）

Matsui Hinako

自然との貸し借り

人と自然の変化する関係性や、「見える、見えない」の問題に潜む先入観や想像力の問題、自身の自然へのまなざしの変化について掘り下げることにしました。

身近な自然から何かを借りて使う経験は、自然に頼る感覚を取り戻したり、木登りのような「個人的な自然とのやりとり」を生むと考えました。「自然を借りるプロダクト」のあり方を模索する中で、「木陰に入れてもらう」というイメージから、木の下に居場所をつくる一枚の帆を制作しました。

胡 俊傑（大学院統合2年）

Hu Junjie

社会ダークサイドの再現

「平和」で「自由」な現代社会は負の側面を持っています。偶像崇拝、過労死、監視社会、環境汚染など、常に暗闇と隣り合わせで暮らしています。ロッカーという画一的な外見と空間の不確定性をもつアイテムで、現代社会の暗黒面をインスタレーションの形式で再現しました。

薛 梦怡（大学院環境2年）

Xue Mengyi

音楽により男木島を活性化させる方法に関する研究

過疎化、高齢化が進む日本の離島。本研究では瀬戸内海にある男木島を対象に、空き家や空き地を活用して、音楽の島をテーマにした離島の集落再生に取り組みました。

産業構造が変化しかつての暮らしに戻ることは不可能な中で、歴史的な景観を継承しながら、単なる保存とも再開発とも異なる緩やかな手法で、現代の需要に応える環境デザインを目指しました。

長谷川 裕子（芸術４年）

Hasegawa Yuko

神道における女性の存在と繋げる力（論文）

アニメや漫画における女性主人公や、巫女の存在などから「文化シンボルとしての女性像」に興味を持ちました。

古来より神道において巫女や斎王などの女性は政治的権力を持ち高い地位についていました。今回は神道にフォーカスし、文献調査と伊勢神宮や斎宮歴史博物館での現地調査を踏まえて、巫女信仰の根源が現代カルチャーに受け継がれていることを考察しました。

2020年度 校友会奨学生

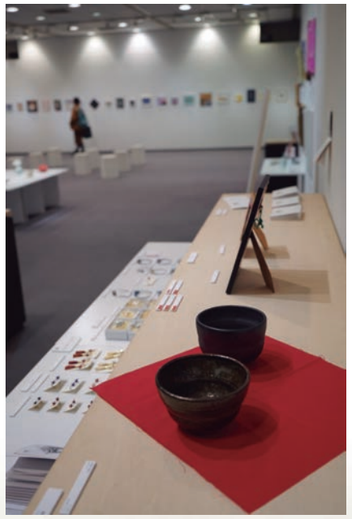
今年度は感染症予防の観点から応募日程や受付方法を変更し実施しました。
アート部門35名、デザイン部門12名の計47名の応募があり、選考会を経て次の15名が選出されました。

【アート部門】
- 通木 菜々絵（日本画 4年）
- 豊田 光（日本画 4年）
- 柳田 佳子（大学院日本画 1年）
- 園田 将久（油画 4年）
- 山口 彩紀（油画 4年）
- 杨 洁（大学院版画 1年）
- 福田 大晃（彫刻 2年）
- 百崎 優花（大学院工芸 1年）
- 高橋 美帆（GD 4年）
- 花岡 和羽（TD 4年）
- イ ヘリム（大学院 TD 2年）

【デザイン部門】
- 伊藤 健太（大学院 GD 1年）
- 倉本 大豪（大学院 GD 1年）
- 池部 ヒロト（TD 2年）
- 汪 駿（博士 1年）

2020年度校友会奨学金選考委員会

【アート部門】八木幾朗（日本画）、菊地武彦（油画）、古谷博子（版画）、木村剛士（彫刻）、高橋禎彦（工芸 / 第1次審査のみ）、小林光男（工芸 / 第2次審査のみ）【デザイン部門】小泉雅子（GD）、武正秀治（PD）、小林るり（TD）、岸本章（環境）、寺井弘典（情報）、米山貴久（統合）、山下恒彦（演舞）
【論文※応募者なし】海老塚耕一（芸術）、丸山浩司（共通教育 / アートのみ）、吉橋昭夫（情報 / デザインのみ）



チャリティ展は、校友会会員による作品販売を目的とした小作品展です。

本展覧会を通じて会員を支援することを目指しています。また収益の一部は、奨学金基金や芸術・文化による災害復興支援に充てられています。

出品者にとっては多くの人に作品を見てもらう機会になり、また、来場者は目当ての作家の作品を安く手に入れるチャンスです。

開催の中止

1998年より22回連続開催してきましたチャリティ展ですが、2020年は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止になりました。

小さな作品を売って応援しよう

第22回多摩美校友会チャリティ展 2019

トーク登壇者の端山さん（左）、下倉さん（右）、野上さん（下）

トーク終了後は身体を動かすワークショップを体験しました。

イベント

第22回（2019年）は、東京・大崎にある光村グラフィック・ギャラリーに場所を移して2回目の開催となりました。展示に合わせトークイベントを企画し、多摩美出身のギャラリストや学芸員の方々にご登壇いただきました。登壇者は端山聡子さん（横浜美術館主任エデュケーター／ '87 芸術）、下倉久美さん（東京都美術館学芸員／ '95 芸術）、野上絹代さん（俳優・振付師・演出家／ '05 映演）で、「障害がある、なしを越えていくアートのチカラ」をテーマに貴重なお話をしていただきました。

来年の開催に向けて

これまで出品を卒業生に限ってきましたが、2021年から校友会準会員である美術学部の3、4年生にもご参加いただく予定です。若く瑞々しい作品が出品されるものと期待しております。そして、展覧会が在学生と卒業生をつなぐ役割になれば幸いです。

第22回チャリティ展のご報告

出品者：135人／来場者：363人／購入者：60人

個展バックアップ賞投票者数188人、投票総数363人

売上金※：717,300円（内訳 画料：353,650円／奨学金基金：181,825円／GBFund：181,825円）

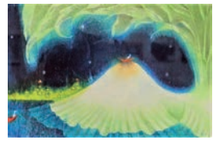
※売上金のうち、50% を作家への画料、25% ずつを「奨学金基金」及び「芸術・文化による復興支援ファンド（GBFund）」（公益財団法人 企業メセナ協議会）への支援金にしました。

個展バックアップ賞 2019受賞者

高梨麻世（'08 院油）

松原麻衣（'16 院日）

坂本一樹（'91 日画）



青柳絵美（'15 院版）

久後育大（'07 院版）

松村淳（'11 工芸）

小学生にアートの授業を届けます

アートやデザインを通して子どもたちに表現の楽しさや可能性を提供するため、小学生を対象にした出張型の授業「出前アート大学」を実施しています。社会や教育の場で活躍している卒業生を講師に迎え、在学生もスタッフとして参加しています。

2019年度は多摩美美術館と八王子キャンパスで、それぞれ鑑賞授業を実施しました。子供たちにとっては普段利用することのできない美術大学の施設や作品に触れ、在学生もまた子供たちの生の表情を見ることができました。

残念ながら2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた授業は休止となりました。2021年度以降の再開に向けて記録整理や準備を進めております。授業の再開が決定次第、校友会ホームページ等でお知らせいたします。

第55回

見て発見！！感じて発言！！ エターナル・アフリカ

2019年10月2日（水）9:30 ～ 11:30
「エターナル・アフリカ＊森と都市と革命
–アミルカル・カブラルの革命思想と
ジョージ・リランガの芸術－展」鑑賞
場所：多摩美術大学美術館
対象：町田市立小山中央小学校4年生130名

10月2日「美術を楽しむ日」に合わせて実施され、多摩美術大学美術館では初めての開催となりました。学芸員課程を学ぶ学生と一緒に、対話を通してひとつの作品をじっくりと鑑賞することで、作品に様々な観方や感じ方があることを発見しました。

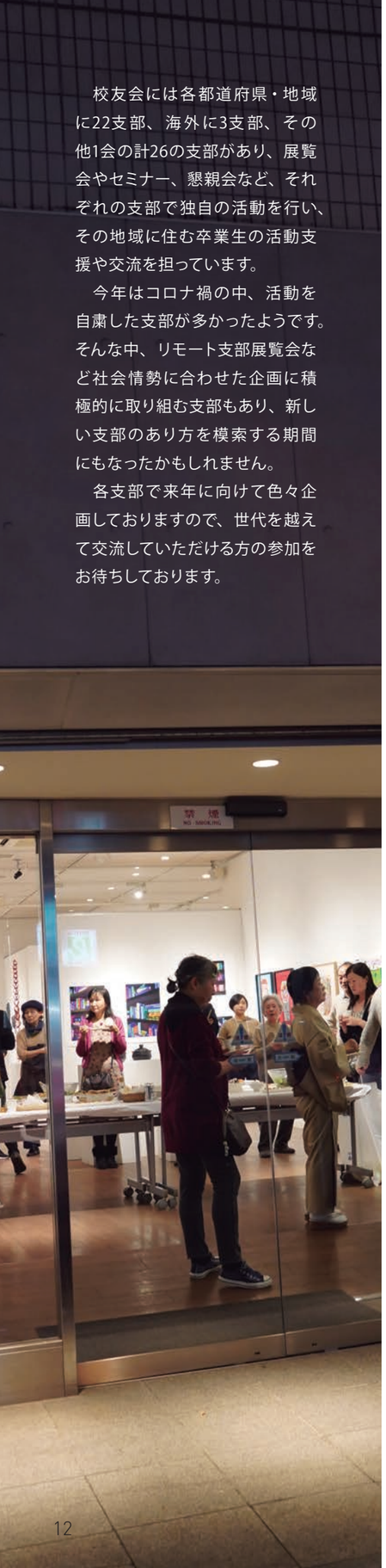
第56回

アーティストの たまごたちに会いに行く

2020年1月17日（金）9:30 ～ 12:00, 13:00 ～ 15:20
「卒業制作展・大学院修了制作展 A」鑑賞
場所：多摩美術大学八王子キャンパスアートテーク
対象：町田市立小山ヶ丘小学校6年生140名

小学生を大学へ招き、学生の協力のもと、卒業制作展を鑑賞しました。普段入ることができない大学のキャンパスに、数々の作品が並ぶ大きな展示空間。お気に入りの作品を見つけて学生に積極的に質問をするなど、様々な出会いがありました。

photo by bozzo



校友会には各都道府県・地域に22支部、海外に3支部、その他1会の計26の支部があり、展覧会やセミナー、懇親会など、それぞれの支部で独自の活動を行い、その地域に住む卒業生の活動支援や交流を担っています。

今年はコロナ禍の中、活動を自粛した支部が多かったようです。そんな中、リモート支部展覧会など社会情勢に合わせた企画に積極的に取り組む支部もあり、新しい支部のあり方を模索する期間にもなったかもしれません。

各支部で来年に向けて色々企画しておりますので、世代を越えて交流していただける方の参加をお待ちしております。

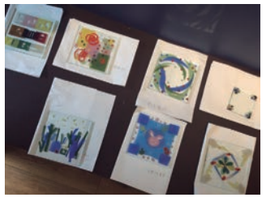
世代を超えて地域で集う

支部活動

北海道支部
東北支部
新潟支部
長野支部
群馬支部
栃木支部
千葉支部
神奈川支部
静岡支部
愛知支部
大阪支部
奈良支部
京都支部
兵庫支部
滋賀支部
和歌山支部
広島支部
愛媛支部
佐賀支部
福岡支部
大分支部
鹿児島支部
ニューヨーク支部
台湾支部
韓国支部
多摩教育の会

千葉支部

千葉多摩美会では、毎年アトリエ訪問、美術鑑賞研修会を行っています。今回は、2019年10月20日（日）に開催した、奥野美果さん（2018年千葉多摩美会展招待出品者）の恵比寿のアトリエ見学とガラス作品制作体験を報告いたします。板ガラスに転写紙で色つけ加飾し、石膏型の上に乗せ、焼成していただきました。会員7名が参加し、3時間弱作業を行いました。その後近くの蕎麦屋で昼食会をし、親睦を図りました。【事務局　駒田朋子（'90 油画）】



新潟支部

今年度は新型コロナウイルスのために、総会・新潟多摩美展・懇親会・会報誌発行等の活動が中止となりました。来年度は6月下旬から7月にかけて行う予定です。和気あいあいが自慢の「新潟タマビ集団」です。多くの皆様の入会をお待ちしています。入会・出品・出席希望の方は電話090-2634-4367へ連絡してください。会報誌を送付いたします。【支部長　小柳幹夫（'72 油画）】

大阪支部

2019年11月奈良、大阪合同で［仏師と行く大和の美仏めぐり］を実施。講師に仏師折上稔史氏を迎えまさに作り手の目線から、皆さん新しい発見があった様です。安倍文殊院、渡海文殊群像、聖林寺、十一面観音像、長岳寺、大地獄絵の絵解き等。東京からも、セミナーハウスへ宿泊し、大満足して頂きました。
来年は阪急小林一三、日清食品安藤百福 etc. 大阪池田市周辺での事業を企画中です。多数のご参加お待ちしております。【支部長　名取久子（'65 図平）】

ニューヨーク支部

ニューヨーク支部恒例展覧会「ホーム・アウェイ・フロム・ホーム16回展覧会」は9月25日（金）から10月8日（木）まで開催、特別展として「小倉千恵個展」と、会員からの小作品の即売コーナーをアーティストの活動支援の為に設置しました。展覧会の様子は動画にして発信しました。定期的ミーティング、セミナー、親睦会は、オンラインでスライド等を使用し、各地を繋ぎます。www.tamabiny.com【支部長　渡辺啓子（'83 油画）】

広島支部

広島支部では、2017年から「ひろしま美術館」のご協力をいただき、正会員優待事業を行っております。ひろしま美術館で開催される特別展の招待葉書を県内の正会員約180名に郵送し、無料で鑑賞していただこうというものです。鑑賞料金は、割り引いていただいた残りを校友会が負担しています。これまで2017年「ピーターラビット展」2018年「ミュシャ展」2019年「レオ・レオーニ展」2020年「ちびまる子ちゃん展」で実施し、多くの卒業生に利用していただきました。【支部長　森長俊六（'79 彫刻）】

福岡支部

本来ならば、今年は小品展を行う予定でしたが、残念ながら中止といたしました。そこで今回、元気に活動されている、福岡支部の会員のアトリエを訪問させて頂きました。1964年図案科卒業の廣末勝己さんです。毎年、精力的に個展をされていて訪問させて頂いたアトリエには8月の個展へ向けての出品前の作品がたくさん並んでいました。【支部長　税田和利（'82 PD）】

多摩教育の会

例年8月に実施してきた総会及び実技等研修講座は新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止とし、10月に総会を開催することとしました。そんな中ではありましたが、8月12日（水）～14日（金）の3日間を使って、教員採用試験２次面接対策研修を八王子市立第五小学校で実施しました。多摩美術大学4年生及び大学院生を中心に15名の参加を得て充実した研修となりました。【支部長　徳永和弘（'82 油画）】

グループ活動の助成

「グループ活動助成金」は、意欲的に芸術活動に取り組む卒業生のグループ活動を応援する助成金制度です。卒業生が5名以上所属し、広く社会に向けて「芸術文化の発展に寄与する」活動・企画を行うグループを対象に、正会員のメンバー1人につき5,000円を助成します※。今年度は企画の中止や延期が相次ぐ中での募集でしたが、次の2グループへの助成が決定しました。毎年募集をしていますので、HP 等をチェックしてみてください。

※金額には上限があります。また、申請総額が予算総額である60万円を超えた場合には比例配分となります。

PRESS

「PRESS 展」

卒業後も精力的に作品発表する場としてのグループ展示。小作品のチャリティ販売や、版画を通してアートを身近に感じてもらう為のワークショップを開催する。
2020年9月20日（日）～ 27日（日）
小杉画廊（神奈川県）

proepi

「アーティストブック [proepi] の発行」

アーティストグループ「proepi」の活動を記録した広報物を発行し、活動をより多くの人に知ってもらう為の機会をつくる。2020年9月中に出版予定。
2020年4月1日（水）～ 9月30日（水）
※冊子制作期間

退職記念展のご案内

本年度をもって退職される教授の展覧会が企画されています

● **平出隆 教授（芸術）**
「平出隆最終講義 = 展 Air Language program」
会期：2020年12月10日（木）～24日（木）（13日、20日は休館）
時間：10:00 ～ 17:00
会場：多摩美術大学八王子キャンパス
図書館アーケードギャラリー、図書館ラボラトリー、
アートテークギャラリー 101 ～ 105

退職された先生方

野田裕示 教授（油画）
多和圭三 教授（彫刻）
村井進吾 教授（彫刻）
野口裕史 教授（工芸）
山形季央 教授（GD）
ヴァーリヘイ・ユディト 教授（PD）
鶴岡真弓 教授（芸術）
大場再生 教授（統合）
佐々木正人 教授（統合）

2020年度校友会理事（第 9 期 2 年目）

【名誉会長】
建畠　哲
【顧問】
東海林隆（'57 図案）
鶴見雅夫（'66 院油）
【会長】
中村一哉（'77 油画）
【副会長】
古結信良（'72 GD）
岡田真智子（'75 GD）
小泉雅子（'83 GD）※
【事務局長】
丸山浩司（'77 油画）※
【理事】
庄山　晃（'69 演劇）
植村　博（'71 彫刻）
碓井義忠（'76 油画）
森長俊六（'79 彫刻）
岸本　章（'79 建築）※
小林清志（'80 油画）
今泉善雄（'81 日画）
阿原乃里子（'82 GD）
税田和利（'82 PD）
吉成知子（'82 ID）
相馬千賀（'82 染織）
八木幾朗（'83 院日）※
宇野　務（'83 院彫）
菊地武彦（'84 院油）※
松村誠一（'85 院油）
奥野美果（'87 CD）
古谷博子（'88 院油）※
米山貴久（'88 ID）※
大久保敏之（'92 ID）
飯田紀子（'94 油画）
福嶋由歩（'00 彫刻）
吉田　圭（'03 造デ）
木内俊維（'05 情報）※

※印：学内教職員

訃 報

■ 毛利武信 元建築科教授　2019年12月12日
■ 室越健美 名誉教授　2020年4月8日
■ 安齊重男 油画専攻客員教授　2020年8月13日

ご逝去された会員の方々

■ 本多八郎（'52 図案）
■ 上田幹雄（'61 油画）
■ 石橋礼子（'66 図平）
■ 延原祐子（'66 図案）
■ 寺岡靄尹子（'69 GD）
■ 今井隆章（'70 油画）
■ 堀口寿夫（'81 写真）

※2019年10月～2020年9月にお知らせのあった方の掲載です

令和元年度 決算・事業報告 令和2年度 予算・事業計画

令和元年度決算（平成31年4月1日～令和2年3月31日）　令和2年度予算

●収入の部

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異	予算額
〈当期収入合計〉	(40,915,000)	(41,977,042)	(△1,062,042)	(90,035,000)
会費収入	37,000,000	38,070,000	△1,070,000	37,000,000
チャリティ展収入	800,000	717,300	82,700	0
寄付金収入	0	0	0	0
懇親会費収入	100,000	131,000	31,000	0
利子収入	10,000	37,851	△27,851	30,000
雑収入	5,000	20,891	15,891	5,000
基本準備金取崩収入	0	0	0	50,000,000
奨学金積立金取崩収入	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
〈前年度繰越支払資金〉	(17,616,118)	(17,616,118)	(0)	(21,802,421)
収入合計	58,531,118	59,593,160	△1,062042	111,837,421

●支出の部

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異	予算額
〈経費支出〉	(37,923,000)	(34,812,074)	(3,110,926)	(83,127,000)
広報費	3,345,000	3,340,585	4,415	3,530,000
「alT」発行	2,705,000	2,730,802	△25,802	2,890,000
正会員カード広報	90,000	87,750	2,250	90,000
校友会グッズ制作	50,000	26,835	23,165	30,000
ホームページ維持	480,000	475,728	4,272	480,000
その他	20,000	19,470	530	4,0000
卒業生データ管理費	1,923,000	1,804,806	118,194	1,118,000
企画運営費	2,970,000	1,970,419	999,581	575,000
チャリティ展	1,589,000	1,441,327	147,673	135,000
出前アート大学	1,081,000	356,706	724,294	220,000
奨学金運営	200,000	72,386	127,614	200,000
美術を楽しむ日	100,000	100,000	0	0
グループ助成	0	0	0	20,000
ホームカミングデー運営費	3,599,000	3,509,186	89,814	2,730000
助成活動費	3,205,000	3,204,318	682	3,328,000
支部助成活動	1,270,000	1,260,000	10,000	1,270,000
グループ活動助成金	500,000	499,998	2	600,000
チャレンジ賞	335,000	331,200	3,800	338,000
芸術祭助成	300,000	300,000	0	300,000
新卒入生記念品	800,000	813,120	△13,120	820,000
会議費	325,000	233,586	91,414	195,000
理事活動費	386,000	112,252	273,748	246,000
交通費	2,645,000	2,505,458	139,542	2,615,000
会合費 (渉外費)	410,000	227,831	182,169	430,000
慶弔費	80,000	111,900	△31,900	80,000
四美大アラムナイ	330,000	115,931	214,069	350,000
備品・消耗品費	2,605,000	2,308,361	296,639	910,000
通信費	420,000	317,386	102,614	420,000
支払手数料	200,000	180,864	19,136	200,000
事務局員給与	12,290,000	11,880,885	409,115	13,030,000
奨学金	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
寄付金	200,000	181,825	18,175	0
雑費	50,000	34,312	15,688	100,000
予備費	350,000	0	350,000	700,000
特別事業費	0	0	0	50,000,000
〈各種引当金〉	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)	(6,900,000)
基本準備金引当金	0	0	0	900,000
周年事業引当金	0	0	0	3,000,000
奨学金基金引当金	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
〈その他の支出〉	(1,087,744)	(1,087,744)	(0)	(1,109,079)
前期未払金	976,701	976,701	0	984,636
前期預り金支出	111,043	111,043	0	124,443
〈調整勘定〉	0	(1,109,079)	(△1,109,079)	0
期末未払金	0	984,636	△984,636	0
預り金	0	124,443	△124,443	0
〈次期繰越支払資金〉	(16,520,374)	(21,802,421)	(△5,282,047)	(20,701,342)
支出合計	58,531,118	61,811,318	△3,280,200	111,837,421

基金積立（平成7年11月3日～令和2年3月31日）

（単位：円）

科目	基本準備金	奨学金基金	名簿出版準備金	特別事業費積立金	全基金積立額	累計
令和元年度 積立	0	3,000,000	0	0	3,000,000	
令和元年度 取崩	0	△3,000,000	0	0	△3,000,000	224,175,464
合計	213,000,000	11,175,464	0	0	224,175,464	224,175,464

令和元年度事業報告

2019年（令和元年）

4月 4日	美術学部入学式祝辞：片桐 仁氏（'96 版画） ＊新入生へお祝いとしてスケッチブック贈呈
5月15日	学内幹事会
5月25日	第144回理事会（上野毛キャンパス）
6月 8日	第30回支部長懇談会（上野毛キャンパス）
6月 9日	「校友会ホームカミングデー 2019」第25回定期総会 / ガーデン同窓会（上野毛キャンパス）
7月20日	第145回理事会（第9期1年目スタート / 上野毛キャンパス） 2019年度校友会奨学金授与（15名） 新データベース運用開始
9月21日	第146回理事会（上野毛キャンパス）
10月 2日	「美術を楽しむ日」美術館無料開放（多摩美術大学美術館） 第55回出前アート大学「見て発見！！感じて発言！！エターナル・アフリカ」（町田市立小山中央小学校4年生 / 多摩美術大学美術館）
11月 1日	設立記念日 芸術祭への助成
11月13日	学内幹事会
11月16日	第147回理事会（上野毛キャンパス） 会報『alT』No.25発行
12月 1日	「多摩美校友会チャリティ展2019」開催 （～7/ 光村グラフィック・ギャラリー）

2020年（令和2年）

1月17日	第56回出前アート大学「アーティストのたまごたちに会いに行く」（町田市立小山ヶ丘小学校6年生 / 八王子キャンパス）
1月25日	第148回理事会（上野毛キャンパス）
3月20日	第149回理事会（※）

※新型コロナウィルスの影響で奨学金成果報告展、学位授与式は中止となった。
また、第149回理事会はメールを使って開催された。

●その他
データベース管理 / ウェブサイト更新 / 正会員カード発行 / セミナーハウス利用受付 / 名簿リスト・宛名シール発行 / チャリティ展チャレンジ賞受賞者支援 / 支部助成 / グループ活動助成 / 四美大アラムナイ実行委員会 / 事務局新 PC 導入、備品購入（カーペット、収納家具等）

令和2年度事業計画

2020年（令和2年）

5月16日	第150回理事会（臨時 / オンライン）
5月30日	第151回理事会（オンライン）
6月 7日	第26回定期総会（オンライン）
7月25日	第152回理事会（第9期2年目スタート / 上野毛キャンパス）
9月26日	第153回理事会（オンライン） 2020年度校友会奨学金授与（15名）
11月 1日	設立記念日 芸術祭への助成
11月 9日	学内幹事会（秋）
11月14日	第154回理事会（オンライン） 会報『alT』No.26発行

2021年（令和3年）

1月23日	第155回理事会（上野毛キャンパス）
3月13日	2020年度校友会奨学生成果報告展 （～15/ 八王子キャンパス） 第156回理事会（八王子キャンパス）
3月15日	美術学部・大学院 学位授与式 祝辞 / 資料配布（八王子キャンパス）

※新型コロナウィルスの影響で入学式、学内幹事会（春）、ガーデン同窓会、チャリティ展、出前授業は中止、支部長懇談会は延期を決定した。

●その他
データベース管理 / ウェブサイト更新 / 正会員カード発行 / セミナーハウス利用受付 / 名簿リスト・宛名シール発行 / チャリティ展個展バックアップ賞受賞者支援 / 支部助成 / グループ活動助成 / 四美大アラムナイ実行委員会 / 特別事業（在学生支援）

校友会は皆様の会費で運営・活動をしています。

多摩美術大学校友会は多摩美術大学の同窓会組織です。現在の会員数は約43,600人です。終身会費を納入いただくと正会員となり、美術館の割引など様々な特典が受けられます。

皆様からお預かりした終身会費は、「ホームカミングデー」「チャリティ展」などの各種校友会行事の運営、会報誌「alT」の発行、支部やグループで活動する卒業生への助成、会員情報の維持管理など、活発な校友会活動のために活用されます。校友会奨学金や芸術祭助成、大学の周年記念事業の寄付といった母校の発展のための支援金や、「出前アート大学」など校友会が行う社会貢献活動の活動資金にもなっています。

校友会活動は会員一人ひとりのご支援とご協力によって成り立っています。2001年以前の卒業生で、まだ校友会費を納めていただいていない方は、ぜひ終身会費の納入をお願いいたします。

※2002年以降の卒業生は入学時に終身会費を納めていただいています

事務局からのお知らせ

正会員カードを発行しています

「正会員」には「正会員カード」を発行しています。宿泊施設利用料・美術館観覧料・画廊使用料・制作に役立つ材料等の割引や大学付属図書館の利用など、カードを提示することで受けられる数々の特典があります。「正会員カード」をご希望の方は事務局までお問合せください。また、校友会では「正会員カード」の特典先を広く募集しています。美術やデザイン関係に限らず、レストラン、カフェ、ショップ等、ご賛同くださる方をご紹介ください！

正会員カード特典先

- 宿泊施設利用料割引
  ヒュッテニポポ、石和びゅーほてるグループ
- 観覧料割引
  横須賀美術館、神奈川県立近代美術館（葉山館 / 鎌倉別館）、ポーラ美術館、おぶせ藤岡牧夫美術館、秋山孝ポスター美術館長岡、福井市美術館、米子市美術館、島根県立石見美術館、ひろしま美術館、日本フィルハーモニー交響楽団演奏会
- 画廊、レンタルスペース使用料割引
  柴田悦子画廊、ギャラリー Q、画廊るたん、ギャラリー風、平八ギャラリー、gallery&cafe みるめ、ギャラリーフォンテーヌ、ギャラリー T、FILESPACE、SEIWA ギャラリー
- 商品割引
  株式会社世界堂（世界堂スチューデント ST カードを校友会事務局で配付）、SEIWA、海野海藻店
- 内部特典
  大学内へ入構する際の身分証明、大学図書館（八王子・上野毛）の利用、多摩美術大学美術館入館料無料
  ※生涯学習センター受講料補助制度・大学セミナーハウスは全卒業生が利用可能です。

データ出力サービス

校友会では、同窓会やグループ展など有志活動の際に名簿リスト、宛名シールを無料にて提供しております。なお、個人情報保護方針に基づき、個人的な使用目的には対応しておりません。

校友会のホームページをご活用ください　https://www.tamabi-alt.com

- 個人情報の変更
  フォームから変更手続きが行えます。
- 展覧会・イベント情報の紹介
  会員の皆様のイベント情報を掲載します。情報提供はフォームから行えます。
- 募集要項のダウンロード
  各校友会事業の募集要項や申込書をダウンロードできます。
- セミナーハウス利用申込
  多摩美セミナーハウスの利用をフォームからお申込いただけます。電話、メールでも受け付けております。

alt

ホームページをご覧になれない方へ

個人情報の変更や展覧会・イベント情報提供、各種書類の請求・提出は、
ハガキ、電話、メールでも受け付けております。

公式 Twitter アカウント、Facebook ページを開設しました。フォローお待ちしております！
Twitter：https://twitter.com/tamabialt
Facebook：https://www.facebook.com/tamabialt1995/

Twitter　Facebook

多摩美術大学校友会会報『アルティ』26号
発行日：2020年11月　発行：多摩美術大学校友会　〒192-0394 東京都八王子市鑓水2-1723　多摩美術大学内　Tel：042-676-0802　E-mail：alt@tamabi.ac.jp
編集：校友会広報委員会　デザイン：小林清志　印刷：有限会社 グラフィックケイ・エム・エー　表紙写真：bozzo